

無料

インド神話の音楽

～神々の響き～

Musical Gods & Sacred Sounds

コンサートとワークショップ

12月1日(土) 15:00～17:00

横浜ユーラシア文化館 1階 旧第一玄関

横浜ユーラシア文化館特別展「華麗なるインド神話の世界」の関連企画として、ヒンドゥー神の音楽を紹介いたします。

プログラム

1. 神話をうたう

マハーバーラタ Mahabharata, ラーマーヤナ Ramayana, プラーナ Puranas, ジャータカ Jatakaなどに登場する神々に関するインドのうた vandana, bhajan, thumri, khayalや民謡の演奏・解説します。

2. 声・楽器・神の相互関係を体験しよう

ワークショップのかたちで「音は神である」ことを経験してみます。

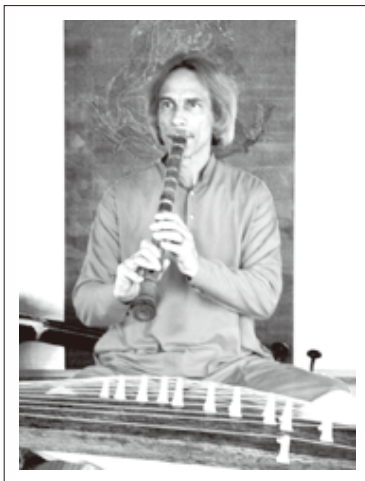
3. 日本・インドの音文化の共通性を探る

声と楽器および歴史でみる日印両文化の言葉と音楽の特性を探ります。

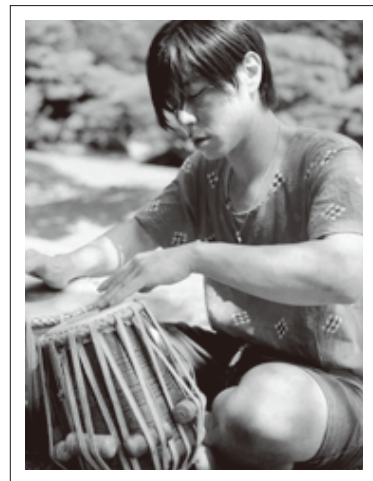
楽器: タブラー (打楽器) 等、タンブーラ (弦楽器)、スワラマンダラ (弦楽器)、インドの電子楽器、日本の尺八、箏



有賀 佐紀子 ARUGA Sakiko
*タンブーラ tambura,
スワラマンダラ swarmandal



ティム・ホフマン T M Hoffman
*うた vocal, 天竺尺八 shakuhachi, 箏 koto



池田 智枝 IKEDA Tomoki
*タブラー tabla

 **横浜ユーラシア文化館**
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

開館時間 Hours ◎ 9:30～17:00 (16:30までに入館 Last Admission)

休館日 Closed ◎ 月曜日 Mondays, 10/9 (火 Tues),

12/25 (火 Tues), 12/28 (金 Fri) - 1/3 (木 Thurs)

祝日開館 Open on Holidays ◎ 10/8 (月 Mon), 12/24 (月 Mon)

〒231-0021 横浜市中区日本大通 12 12 Nihon-odori, Naka-ku, Yokohama
Tel.045-663-2424 Fax.045-663-2453 <http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>



●みなとみらい線日本大通り駅3番出口から 徒歩0分 ●JR関内駅南口、市営地下鉄関内駅1番出口から 徒歩10分 ●市営バス「日本大通り駅県庁前」下車 徒歩1分



インド神話の音楽

～神々の響き～

Musical Gods & Sacred Sounds



出演者の紹介

ティム・ホフマン T M Hoffman

米国出身。ピアノを4歳よりはじめ、尺八を故人間国宝山口五郎、インド古典音楽を G.P. ミシュラの許で実践を積む。日本、インド、南アジア全国、米国、ヨーロッパなどで公演、放送された。寺院でも多数の演奏、講演をする。1987年インド国 U.P. 州知事賞（北インド古典音楽部門）、2003年日本外国特派員協会デロイ賞受賞。カリフォルニア州立大学、国際基督教大学、パートカンデ音楽大学（インド）、ハワイ大学大学院／米国国立東西研究所修士。慶應義塾大学、武蔵野音楽大学をはじめ様々な教育機関でも講師を務める。音楽教室を主宰。CDの監修『尺八と箏のためのインド音楽』など音楽資料著作・編集・訳書も多数出版され、日印音楽交流会代表として日本・インド国内外の音楽企画を実施している。www.ijmea.com

有賀 佐紀子 ARUGA Sakiko

群馬県出身。東京で山田流箏を山田広代に師事、ホフマン氏及びインドの V.P. ミシュラ師にインド音楽を習い、弦楽器伴奏を担当する。インドと米国で演奏。1992年より日印音楽の演奏会シリーズ「幻楽夢奏」など国内外の企画に出演している。

池田 智岐 IKEDA Tomoki

渡米中、ニューヨークで見たタブラーに衝撃を受け、そのままインドに行く。聖地バラナシの伝説的なタブラー奏者 Pandit Lacchu maharaji に師事し、現在は U-Zhaan とその師である Pandit Anido Chatterjee に師事。インド古典という枠を超えてさまざまな分野で活動中。

楽器の紹介

箏 koto (弦楽器)

日本の代表的弦楽器で、細長い箱型の木製の共鳴胴の上面に13本の弦を張り、柱を立てて調弦し演奏する。インドの何千もの音階の全ては箏で調弦ができ、弦を押して音を高くする「押し手」などの技法を使うと「ラーガ」の演奏も出来る。また、打弦奏法、弓奏などの新演奏法が広く注目されている。古代インドでは、箏のような弦楽器を「ナーラーヤン・ヴィーナー」と呼んでいる。

天竺尺八 shakuhachi (たて笛)

日本のたて笛で、指孔は表4、裏1計5孔。標準管は一尺八寸で、本曲、箏曲、民謡などに使われる。指孔を上から滑らかに閉じる手法は、インドの「ラーガ」の表現にも適している。尺八のようなたて笛が古代インドの洞窟絵に描かれている。

タブラー tabla (太鼓)

南アジアの締め太鼓の一つ。二個一組の太鼓で右は「ダーヤーン」、左の低音は「バーヤーン」。それぞれの音色を組み合わせることにより20種類もの音色が出せる。北インド及び南アジア全域の音楽の音楽・器楽および踊りの伴奏に使われている。伴奏以外に独奏としても、インド内外で好んで演奏される。小鼓などの東アジアの締め太鼓はインドに由来する。

タンブーラ tambura (弦楽器)

木製のリュート。長い竿の下に共鳴器としてひょうたんの胴が付けられている。フレット（音の高さを変えるための仕組み）はなく、4本の開放弦を中指と人指し指で弾く弦楽器。倍音豊かな音背景をそなえ、音楽・器楽に欠かせない。

スワラマンダラ swarmandal (弦楽器)

「音の環」を意味する弦楽器。「ラーガ」の音に調弦された30～40弦を片手で掻き鳴らす。古典音楽の伴奏に使われる。

※「ラーガ」…インドで使用される旋律を構築するための規則



横浜ユーラシア文化館
Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通 12 12 Nihon-odori, Naka-ku, Yokohama
Tel.045-663-2424 Fax.045-663-2453 <http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>